

「使徒信条：キリスト教信仰の基本表明」

コリント第一 15：3-4

「15:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、15:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、」（新改訳）

おはようございます。今日ここで皆さんにお会いできて光栄です。

昨年、私はここ大阪インターナショナルチャーチでメッセージをお分かちしました。そのときは、マルティン・ルターと宗教改革におけるプロテスタントの五大原理についてお話ししました。そのトピックを選んだ理由は、昨年が宗教改革 500 周年にあたる年であったことがひとつです。もうひとつの理由は、私自身が子どものころにルーテル派の教会に行っていて、その教会の日曜学校で教わったすばらしい基本的教えに今も感謝しているからです。

今日は、再び歴史と関連するメッセージをお分かちしますが、今日はさらに時代をさかのぼります。ご存知の方もおられると思いますが、私は古代教会の歴史について研究しています。キリスト教が始まった初期数世紀から、アジア全域にキリスト教信仰が広まった歴史についてです。今日のメッセージと6月のメッセージで、キリスト教が始まった初期数世紀に編み込まれたキリスト教信仰の基本声明をふたつご紹介します。そのふたつとは、使徒信条とニカイア信条です。このふたつには関連性がありますが、異なる状況下で異なる目的のために生み出されました。伝統的な教会では、礼拝中にこれらの信条を会衆が唱和します。このふたつの内容はどちらも、キリスト教信仰の本質的教理の要約です。そういうわけで、私はこの春、皆さんにこのふたつの信条についてお分かちすることにしました。ここに、私たちの信仰の本質的かつ基本的教理のおおすじが簡潔にまとめられているからです。それぞれの信条を一文一文取り上げ、その声明がどのみことばの個所に基づいているのかを紹介していきます。

今日のメッセージは、「使徒信条：キリスト教信仰の基本表明」というタイトルです。そしてこのメッセージの中心聖句として、コリント第一 15：3-4 に記された使徒パウロの簡潔な信条を選びました。

15:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、15:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、

では、使徒信条を紹介します。週報の中に、使徒信条のプリントを入れてあります。使徒信条は、初代教会時代に使われていた洗礼信条のひとつです。当時、多くの教会には、新たな信仰者が洗礼を受ける前に朗読する洗礼信条というものがありませんでした。現代では、新しい信徒が洗礼を受ける前には、「～を信じますか」「～を信じますか」という具合に、牧師が信仰に関する基本的な質問をいくつか問いかけます。紀元2世紀でも同じでした。それらの質問から誕生したのが、キリスト教信仰の基本的なポイント、つまりクリスチャンが信じるべき事柄をまとめた簡潔な信条です。信条は英語で「**creed**」と言いますが、これはラテン語で「私は信じる」を意味する「**credo**」が語源です。

ところで、今日私たちが学ぶ信条は「使徒信条」と呼ばれています。そう呼ばれているからには、12使徒が書いたのかと思うでしょう。しかし、実際にはそうではありません。12使徒への敬意を表して、そう呼ばれるようになりました。というのも、使徒信条は、使徒たちの

教えの本質的要素をまとめたものだからです。イエス・キリストが使徒たちに福音を教え、彼らがそれを私たちに伝えてくれました。使徒信条を唱和するのは、使徒たちと同じく、彼らが告げ知らせたイエス・キリストの福音に信仰を置いていることの表明です。同時に、すべてのクリスチャンに受洗時の信仰告白を思い起こさせる役割もあります。今日のメッセージが、神のみことばに根差した私たちの信仰の基本を思い起こさせてくれるものとなるよう願っています。

では、使徒信条を読んでいきましょう。

「わたしは、天地の造り主（つくりぬし）、全能の父なる神を信じます。わたしは、そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。」と始まります。ここには、父なる神と神の御子、唯一の御子であるイエス・キリストに対する信仰があらわされています。そして、キリストに関する説明がしばらく述べられた後、「わたしは、聖霊を信じます。」とあります。ここに、私たちが三位一体と呼ぶ父、子、聖霊の神が示されています。

なぜこのように3部構成となっているのでしょうか。それはおそらく、大宣教命令の中でキリストが弟子たちに指示された内容を反映してのことでしょう。マタイ 28：19 を読みましょう。

マタイ 28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

使徒信条

わたしは、天地の造り主（つくりぬし）、全能の父なる神を信じます。わたしは、そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、処女（おとめ）マリアから生まれ、ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、陰府（よみ）にくんだり、三日目に死者のうちから復活し、天に昇って、全能の父なる神の右に座しておられます。そこから来て、生きている者と死んでいる者とを審（さば）かれます。わたしは、聖霊を信じます。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだの復活、永遠（えいえん）のいのちを信じます。
アーメン

洗礼式では、牧師が「父、御子、聖霊の御名によって洗礼を授けます」といった内容のことを言います。これは、主が命じられたことです。これらの言葉は、マタイの福音書のみことばから直接引用されています。使徒信条がもともと受洗前に受洗者の朗読する洗礼信条であったことを考えるなら、このように3部構成になっている理由が理解できます。

では次に、使徒信条の一文一文を読んで、そのコンセプトの基となる聖書箇所を紹介していきましょう。関連聖書箇所をすべて紹介することはできませんが、その一例を紹介していきます。

わたしは、天地の造り主（つくりぬし）、全能の父なる神を信じます。

聖書の大筋を見ていきますが、最初の部分から始めるのがよいでしょう。

創世記1:1 初めに、神が天と地を創造した。
創世記1:3 神は仰せられた。「光があれ。」すると光があった。

何も存在しないときに、神はそこにおられました。神は永遠のお方で、ずっとおられたお方です。そして、すべてのものをお造りになったお方です。創世記1章は、神が天と地、光、地面、海、太陽、月、星、動物、鳥、水中生物、そして、人間をお造りになったと語ります。

創世記1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、

男と女とに彼らを創造された。

古代は、多神教が一般的でした。ですから、初代教会の教父にとって神は唯一のお方であること、そのお方は他の何もないときから存在しておられたこと、またそのお方がすべてのものの存在の起源であること、そして私たち人間の創造主であられることを指摘するのは重要でした。

この神は「父」と呼ばれます。この単語は、神を指す言葉として聖書の随所で使われています。

イザヤ書63:16b … 【主】よ、あなたは、私たちの父です。あなたの御名は、とこしえから私たちの贖い主です。

マタイ6:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。

全能の父なる神

次に注目する単語は、「全能の」です。私たちの神はすべてにおいて力のある神です。神学者は神が全能だと言います。「全」はすべてであり、「能」は能力がある、ということです。

聖書に記された神の大いなる業について考えてみましょう。創造、自然を治める御力、ノアの時代に起こされた洪水の裁き、アブラハムを召してなされたイスラエルの民への業、エジプトからの御民の救出、荒野での導き、聖なる地の征服等々。

ここでいくつかの聖書箇所を読みましょう。

イザヤ書 14:27 万軍の【主】が立てられたことを、だれが破りえよう。御手が伸ばされた。だれがそれを戻しえよう。」

黙示録 1:8 神である主、今いまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

わたしは、天地の造り主（つくりぬし）、全能の父なる神を信じます。

これが使徒信条の第一部です。ここで少し立ち止まってみましょう。私はメッセージを取り次ぐことにおいては初心者ですが、すべてのメッセージに含まれるべきことがふたつあると考えています。ひとつは聖書のみことばです。そしてもうひとつは、会衆の方々への励ましや勧め、教えの実践などです。

創世記 17:1 アブラムが九十九歳になったとき【主】はアブラムに現れ、こう仰せられた。

「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。

神は、イシュマエルが生まれてから13年間もアブラムに対して黙っておられました。そしてついに沈黙を破られたとき、このようにおっしゃいました。ご自身を全能の神と名乗り、アブラムにふたつのことを告げられました。そのふたつのことは、神が私たちひとりひとりに望んでおられる最も基本的なことだと私は思います。それは、忠実に神の前を歩むこと、そして全き者であることです。私たちは完璧にはなれません。けれども、きよく正しい生き方を目指すべきです。神に栄光を帰すように生きられますように、と私は日々祈っています。

では、次に進みましょう。

わたしは、そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。

使徒信条の次の部分は、主イエス・キリストに関する個所で、少し長めです。イエスの生誕、働き、死、復活は、キリスト教信仰のもっとも重要な部分です。では、その一文目の「そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリスト」という部分を見ていきましょう。

イエス：

マタイ 1:21b …その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

「イエス」という名は「主が救われる」「エホバが救われる」という意味です。これは、神の民である私たちを救うために地上に遣わされたお方です。

キリスト：これは名前ではなく称号です。これは「油注がれた者」という意味のメシヤという単語のギリシャ語です。これは、旧約聖書の預言者たちが語るダビデの子孫、約束されたメシヤです。ナザレのイエスが登場したとき、彼が来たるべきメシヤであると気づいた人もいました。

ヨハネ 1:40-41 ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。1:41 彼はまず自分の兄弟シモンを見つけて、「私たちはメシヤ(訳して言えば、キリスト)に会った」と言った。

主は、井戸で出会った女など、他の人々にもご自身の正体を明かされました。

ヨハネ 4:19 女は言った。「先生。あなたは預言者だと思います。」

4:25-26 4:25 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」 4:26 イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

4:28-29 4:28 女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。4:29 「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのではないでしょうか。」

わたしは、そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。

使徒パウロの手紙の冒頭にあるとおり、このお方は、主イエス・キリストです。

コリント第一 1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたにたの上にありますように。

そして、イエス・キリスト、神のひとり子です。ある意味で、私たちは皆、神の息子・娘です。私たちは神の被造物であり、クリスチャンは神の家族に迎え入れられた者です。しかし、イエスは唯一のお方です。イエスは神のひとり子と呼ばれます。神学者によると、イエスは父なる神によって「永遠に生み出された」お方です。イエスは、三位一体の第二格をなし、父なる神と同じ本質を共有しておられます。御子は御父に属し、神に造られた人として地上に遣わされました。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

主は聖霊によってやどり、処女（おとめ）マリアから生まれ、

クリスマス時季になると、この話を繰り返し耳にします。御使いガブリエルがマリヤに告げました。

ルカ1:31-35 1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエス

とつけなさい。1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」1:34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」1:35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。

私たちの罪のためにいけにえとなられるお方、つまり救い主が完全で罪のないお方であることは、私たちの救いにとって重要なポイントです。このお方のご生誕は奇跡でした。人間の父を持たず、聖霊によって宿り、処女からお生まれになりました。また、私たちの救い主、三位一体の第二格をなすお方が人の肉体をまとわれたことが重要です。そして、人としてこの世に生まれることでそうなたったというのが重要です。このお方は、マリヤをとおして人としてお生まれになりましたが、このお方の父は神でした。三位一体の第三格である聖霊によって宿ったからです。

ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、

初代教会の教父たちにとって、キリストの生誕と死と復活を歴史の大枠の中に置くことは重要でした。イエスが十字架にかかれた当時のローマ帝国の総督はポンティオ・ピラトでした。四福音書の著者は全員、この人物に言及しています。

マタイ27：1-2 27:1 さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、イエスを死刑にするために協議した。27:2 それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。

総督の名は、使徒信条にも含まれています。これは、キリストの生と死が史実であることを強調するためです。福音書の著者たちは、あらゆる重要な局面で他の政治指導者たちの名まえや肩書きも記録しています。たとえば、イエスの生誕の話の冒頭で、ルカは次のように記しています。

ルカ2：1-2 2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。2:2 これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。

ルカは、バプテスマのヨハネの働きについても紹介しています。

ルカ3：1-2 3:1 皇帝テベリオの治世の第十五年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの国主、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニテ地方の国主、ルサニヤがアビレネの国主であり、3:2 アンナスとカヤパが大祭司であったころ、神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。

私たちの信仰は、史実に基づいています。イエスは実際に生きて死に、この後に紹介されるように、死から実際によみがえりました。そして、多くの人々がそのことを目撃しました。

使徒信条が語るとおり、イエスは苦しみを受けられました。イエスは、正真正銘の人間の体を持っておられました。初期の異端が主張するような、幻や霊ではありません。

ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、 十字架につけられ、死んで葬られ、

ヨハネ 19：17-18 19:17 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、「どくろの地」という場所(ヘブル語でゴルゴタと言われる)に出て行かれ

た。19:18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真ん中にしてであった。

マルコ 15 : 33-34 15:33 さて、十二時になったとき、全地が暗くなって、午後三時まで続いた。15:34 そして、三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

マルコ 15:37 それから、イエスは大声をあげて息を引き取られた。

マタイ 27 : 57-60 27:57 夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。27:58 この人はピラトのところに行って、イエスからだの下げ渡しを願った。そこで、ピラトは、渡すように命じた。27:59 ヨセフはそれを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、27:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。

使徒信条は続きます。

陰府（よみ）にくんだり、

この文は、現代クリスチャンの間に不満と混乱を招きました。私たちには奇妙に聞こえるからです。陰府（よみ）というのは、神を拒んだ人たちが永遠の苦しみを受ける地獄のことではないのでしょうか。

その問いにお答えしますが、これは、永遠の罰を受ける場所を指しているわけではありません。この個所は、「ハデス」という単語が使われていたほうが、それでも十分とは言えませんが、わかりやすかったかもしれません。今日、私たちが地獄と呼ぶ場所は、イエスが「ゲヘナ」と呼ばれた場所です。それは黙示録が、「第二の死」および「火の池」と呼ぶ場所です。これは、悪者が最終的に行き着く場所です。ギリシャ語の「ハデス」およびヘブル語の「シェオル」、つまり陰府（よみ）が指すのは異なる場所です。それは、死者の行く暗闇の世界、死者のたましいが住む場所です。

使徒信条は、イエスが「陰府（よみ）にくだ」ったと語ります。これは、ゲヘナや火の池を指してはいません。そうではなく、死者の行く暗闇の世界に行かれたということです。この部分の主旨は、人間の体と人間のたましいを持つ完全に人間であったキリストが本当に死なれたということです。繰り返しますが、このお方は幻ではありませんでした。骨と肉からなる体をお持ちでした。そして、実際に苦しんで死なれたのです。そしてこのお方の人間としてのたましいは、体を離れて死者の行く場所に行きました。主の遺体は埋葬され、そのたましいは、暗闇の世界に行ったのです。

こういうわけで、英語の現代語版使徒信条では、この部分は死者の世界にくんだり、と変更されています。

主は3日間そこにおられました。そして、驚くべきことが起こりました。使徒信条はこれに続いて、人類にとってもっともすばらしい知らせを告げます。

三日目に死者のうちから復活し、

これはキリストの復活です。これはすばらしい知らせです。十字架上でささげられた犠牲とその後の復活によって、キリストは罪と死に打ち勝たれました。私たちが先週イースターで祝ったのは、まさにこのことです。これこそ私たちが世に告げる良い知らせです。キリスト教のメッセージの最も重要な部分です。福音書から復活に関する個所を引用することもでき

ますが、今日は私の好きなみことばの個所を読みたいと思います。コリント第一 15 章の前半です。これは、初期の信条声明のような言葉です。使徒パウロは次のように書いています。

コリント第一 15 : 3-8 15:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、15:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、15:5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。15:7 その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。15:8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。

パウロはここで、彼自身が「受けた」ことを「伝えた」と言っています。そして、式文のような言葉を使って語ります。この部分については、クリスチャンの学者もノンクリスチャンの学者も、初期の信条声明のようであると考えます。その大部分は、パウロが改宗する前からすでに伝わっていたものです。パウロはこの信条を目撃者のリストとともに「受け」、自らもそのリストの最後に名を連ねました。彼自身もよみがえりのキリストを目撃したからです。

ここで再び立ち止まり、ふたつめの勧めの言葉を分かち合いたいと思います。

ローマ6:3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。
6:6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。
6:11 このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。

イエスは、私たちの罪の代価を支払い、十字架上で死んでくださいました。私たちは、「その死にあずかるバプテスマを受け」ました。「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられ」ました。ですから、私たちは、「自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思」わなければなりません。イエスは私たちのために死んでくださいました。私たちもこのお方とともに死ぬべきです。罪を捨てるよう最大限努めなければなりません。自分は罪に対しては死んでいると考えるからです。

では、引き続き使徒信条を学んでいきましょう。

天に昇って、全能の父なる神の右に座しておられます。

使徒 1 : 9-11 1:9 こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。1:10 イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。1:11 そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

コロサイ 3:1 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。

そこから来て、生きている者と死んでいる者とを審(さば)かれます。

使徒 1:11 …あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

黙示録 20 : 11-15 20:11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。20:13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。20:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

これで、イエス・キリストに関する部分は終わりです。次は三位一体の第三格に移ります。

わたしは、聖霊を信じます。

今日冒頭でお話ししたように、使徒信条が三部構成となっているのは、大宣教命令のイエスのことばに基づいています。

マタイ28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

同様に、三位一体に則った式文調の言葉は以下の個所にも見られます。

コリント第二13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

御父と御子をご人格です。また、ここで示されているように、聖霊もご人格をお持ちです。

イエスは、弟子たちのもとを離れるときには、代わりとなる存在を送ると約束なさいました。

ヨハネ14 : 16-17 14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。

ヨハネ14 : 25-26 14:25 このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

聖霊は、働きをなすための力を与えてくださいます。イエスは天に昇られる前、使徒たちにそうおっしゃいました。

使徒1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

聖霊の働きについてはもっとたくさんの方が言えますが、今は先に話を進めましょう。

わたしは、聖霊を信じます。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだの復活、永遠（えいえん）のいのちを信じます。

アーメン

聖なる公同の教会、

ここで「公同の」と訳された部分は、英語では「catholic」となっていますが、これはローマカトリック教会を指すわけではありません。日本語にあるとおり、「公同の」つまり、全世界の、全体の、という意味です。これは、万民共通の教会であり、すべての信徒がその教会員です。OICの良いところは、あらゆる背景のクリスチャンが集まって、キリストと神のみことばという共通の信仰に立ち、一致しているところです。私はこれまで諸外国を旅してきましたが、旅行中は常に、英語礼拝でなくてもどこかの教会を探して礼拝に参加するようにしました。そこで、信仰の兄弟姉妹と出会うことができました。

教会は聖なる存在です。この単語の基本的な概念は、「区別されている」ということです。私たちクリスチャンは、罪深い世から区別された者であり、キリストの御国の一員となるために区別されたのです。

コロサイ1:22 今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。

「聖なる」と訳されたギリシャ語の「ハギオス」は、「ハギアズ」という動詞に関連しています。この動詞は、「きよめる」とか「聖なるものとする」という意味です。名詞形の「ハギオス」は、「聖なる」または「聖なる者」という意味です。使徒パウロはクリスチャンを「聖徒」と呼びます。この呼び方は、パウロの手紙の冒頭によく登場します。

エペソ1:1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロから、キリスト・イエスにある忠実なエペソの聖徒たちへ。

では、使徒信条の次の部分に進みましょう。

聖徒の交わり、

「交わり」と訳されたギリシャ語の単語は「コイノニア」です。皆さんもこの言葉を聞いたことがあるでしょう。新約聖書では、一般的に「交わり」と訳されています。これは分かち合いを意味します。多くの場合、所有物や財産を分かち合うことを指します。また、物質面以外で人のお世話をすることも指します。教会を家族だと考えると、私たちは物心両面で互いに支え合います。

使徒2章の終盤には、教会生活の4つの主要要素が記されています。

使徒2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。

- ① 使徒たちの教え。これは、キリスト教信仰における教えです。
- ② 信徒同士の交わり。必要を分かち合い、励まし合います。
- ③ パンを裂く。食事をともにすることと、聖餐式にともに与ることです。
- ④ 祈り。祈りのために時間をとることです。

ところで、アリスティア牧師が以前勧めてくださった60個の暗唱聖句を覚えていますか。実は、私は大学時代に60枚のカードを購入しましたが、そのときは完成しませんでした。確か、10個くらいしか覚えられませんでした。けれども、そのうちの3つか4つのみことばは私にとって特別なみことばになり、そのみことばに沿って生活するようになりました。

ここで、3つめの勧めの言葉を分かち合いたいと思います。私が生活の中心に据えたみことば

のひとつです。

ヘブル10：24-25 10:24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。10:25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

私たちは、クリスチャン同士で集まるのをおろそかにしてはいけません。礼拝やバイブルスタディ、その他のクリスチャンの集会に行きましょう。私たちはクリスチャンの兄弟姉妹とつながっている必要があります。教会に来て、互いに励まし合しましょう。

コロサイ3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。

罪の赦し、

ヨハネ第一 1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

ローマ 3：23-25a 3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、3:24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。3:25 神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。…

エペソ 1:7 この方にあつて私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

からだの復活、

ローマ 6:3-5 6:3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。6:4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。6:5 もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。

コリント第一 15:42-44 15:42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、15:43 卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされ、15:44 血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

永遠（えいえん）のいのちを信じます。アーメン

ヨハネ 5:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。

黙示録 21:3-4 21:3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、21:4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

アーメン

今日は、皆さんに使徒信条をお分かちしました。これは、キリスト教初期の数世紀の間に発展した洗礼信条です。キリスト教への改宗者が支持すべき信仰の本質的要素であると初代教会が考えた内容を反映したものです。

私はこのメッセージを準備しながら、救いに関する教えはどこにあるのだろうと考えました。現代では、「恵みのゆえに、信仰によって」という聖書の救いに関する教えを強調します。信仰によってという部分は、使徒信条にちゃんと含まれています。

**わたしは、…全能の父なる神を信じます。
わたしは、…イエス・キリストを信じます。…生まれ、…死んで…復活し、
わたしは、聖霊を信じます。…教会、罪の赦し、…を信じます。**

最後に、もうひとつみことばを分かち合って終わりたいと思います。

ローマ 10 : 9-10 10:9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。 10:10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。